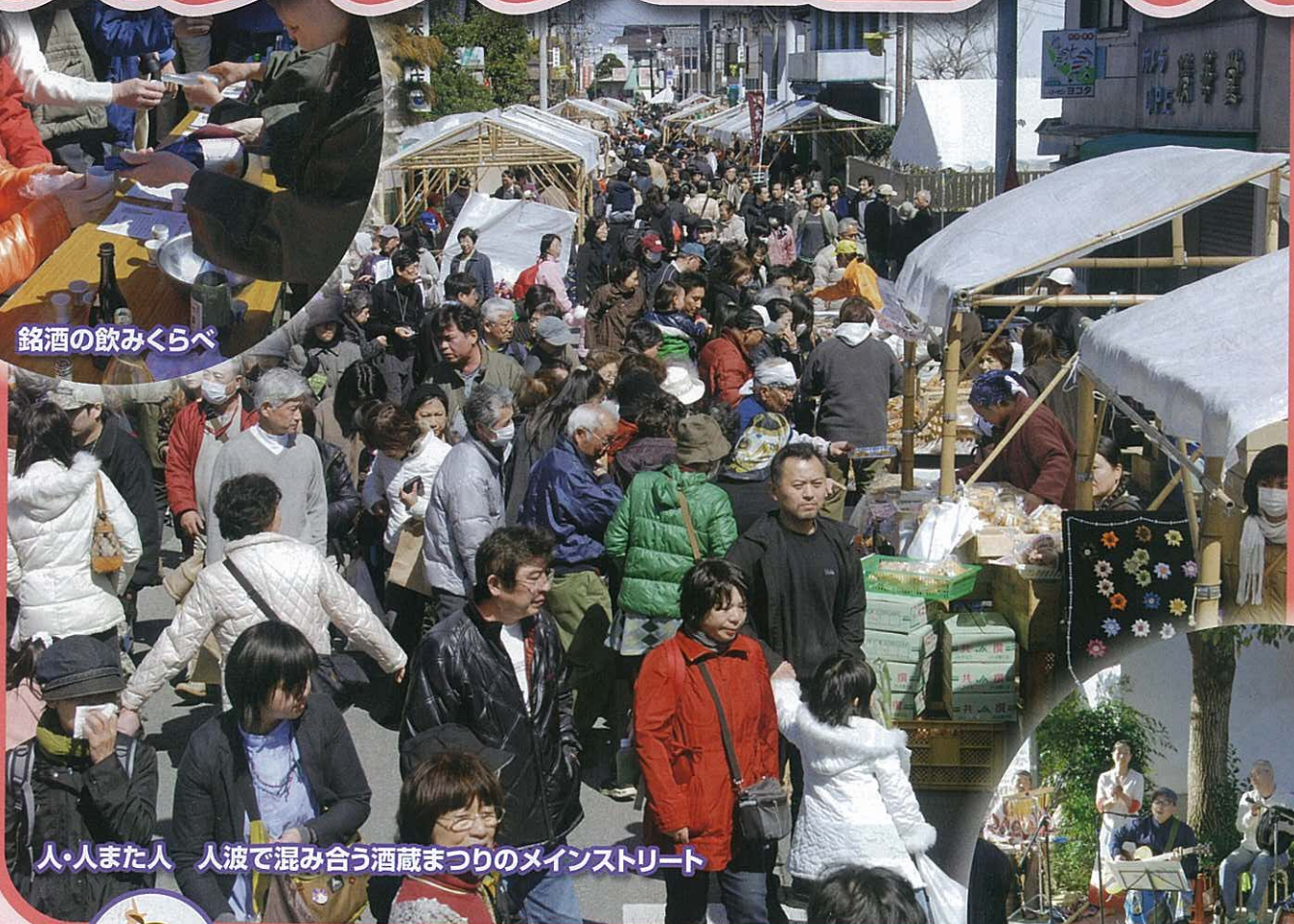


ちばけん公民館 スタッフニュース



銘酒の飲みくらべ



人・人また人 人波で混み合う酒蔵まつりのメインストリート



ミニコンサート会場



わがまちじまん!! 神崎町「酒蔵まつり」

千葉県の北東部に位置する神崎町は、雄大な利根川を挟んで茨城県と県境を接し、成田空港からは車で30分ほどの距離にあります。

本町は、利根川下流域の広大な沖積地を背景に、稲作を主体とした風光明媚な農村地帯であるとともに、良質な水資源と船運の利便性により江戸時代から醸造業の町として栄えてきました。

明治時代の最盛期には、造り酒屋7軒・醤油屋3軒が軒を連ね活況を呈していましたが、現在では2軒になってしまいました。2軒ともそれぞれに毎年蔵まつりを行っていましたが、2009年から合同で酒蔵まつりを実施することになり、春3月15日に開催されました。当日は、今は製造されていない幻の銘酒が復元され、酒蔵見学や各種地酒の飲みくらべが行われたほか、ミニコンサートやトークショー、また地元特産品や食品・アクセサリ等を販売する模擬店も多数出店し、参加者には大変喜ばれました。

商工会・町民・町が一体となって盛り上げ、人口7千人弱の町に当日は2万人以上の来客が押し寄せ、会場周辺は人波であふれました。毎年3月中旬に開催されますのでぜひ神崎酒蔵まつりにお出かけください。

千葉県公民館連絡協議会

第61回千葉県公民館研究大会開催



11月18日、さわやかちば県民プラザ（柏市）を会場に、第61回千葉県公民館研究大会「明日に向かって！公民館 ～たのしい元気な公民館づくりをめざして～」が開催されました。

この大会には、県内の公民館職員や公民館運営審議会委員、社会教育関係者など、約380人が参加しました。

午前の部では、はじめに元NHKアナウンサー村松真貴子さんより、「コーディネーターとしての公民館～笑顔あふれる地域づくりのために～」をテーマに、「地域の人が中心となった活動をサポー

トする」、「地域を知る、地域の人たちと顔馴染みになる」など、いきいきとした公民館活動をするためのポイントについて講演がありました。続いて、野田市長根本崇さんより「社会教育の拠点としての公民館」、「指定管理者と公民館」など公民館のあり方について講演がありました。「公民館の講座等での学びから、自分の人生をもう一度見直し、学習し、地域社会・市民の中に積極的に参加していく。そのお手伝いをする機関になることを期待しています。そのためには、公民館職員が考え、提案し、実践することが必要です。皆さんには頑張ってもらいたい。」と締めくくりました。

講演の最後には、お二人による記念対談が行われました。

午後の部では、「地域活性化の組織と公民館事業」、「公民館の管理運営と事業評価」、「期待される公民館職員」、「高齢社会と公民館」、「事業に生かす人権の視点」、「子育て支援と家庭教育」、「子ども・青少年の居場所作りと公民館」の7つの分科会に分かれ、各分科会ともそれぞれの研究テーマに沿って活発な討議が行われました。

社会教育法制定60周年記念

全国公民館研修大会



10月16日東京有楽町の東京国際フォーラムにおいて社会教育法制定60周年記念 全国公民館研修大会が開催されました。この大会は、公民館をとりまく環境が大きく変わりつつある今日、「社会教育法60年とこれからの公民館」というテーマのもと、半世紀以上にわたる公民館の歴史を紐解き

ながら、今後のあたらしい公民館のあり方を再構築するために企画された、いわば公民館の「温故知新の大会」であり、全国47都道府県全ての地域から約1,000名が参加し開催されました。

大会は、多くの来賓をお迎えし、永年にわたり社会教育の現場で活動され、輝かしい功績を残された19名の方々に対しての表彰に始まり、続いて、「地域文化と公民館」をテーマに山崎正和氏の特別講演が行われました。

午後からは、「映像で見る公民館の歴史」と題して、東京国立近代美術館フィルムセンターに寄贈された、大変貴重なナトコ映画の上映がありました。映画では、社会教育法が施行された当時のわが国の公民館の姿や、また、そこで行われていた様々な活動が紹介されており、参加者一同興味深く拝見いたしました。

その後行われたシンポジウムでは、「公民館の

歴史を再確認し、新たな未来を築いていこう！」というテーマのもと、文部科学省生涯学習政策局社会教育課長の神代浩氏、京都市教育政策監の生田義久氏、特定非営利活動法人 教育支援協会代表理事の吉田博彦氏、千葉県公民館連絡協議会顧問の朱膳寺宏一氏の4名をシンポジストとしてお迎えし、国立教育政策研究所 生涯学習政策研究部総括研究官の笹井宏益氏の進行により、今後、公民館が取り組まなければならない課題について、活発な議論が展開されました。また、シンポジウムの終わりには、朱膳寺氏から文部科学省に送られた、「公民館が今後とも教育委員会にとどまれるよう頑張っていたきたい」とのエールの言葉に、会場は満場の拍手につつまれ、大盛況のうちに大会を終了しました。

この大会のキーワードは、「温故知新の大会」

であると、先にご紹介いたしましたが、参加された方々は、改めて公民館の歴史を再確認し、明日からの公民館での取り組みのヒントを得られた、そんな充実した一日を過ごされたのではないのでしょうか。

用語の解説

ナトコ映画… GHQの民間情報教育局が日本国民に対して民主主義的な思想を普及するために制作した教育映画で、ナトコ(NATCO)とは、GHQが日本に持ち込んで巡回映画に使った軍用映写機の名称で、当時全国で1,300台のナトコ映写機と、3,000タイトルに及ぶ16ミリ映画を日本に貸与し、社会教育における活用を促しました。

栄えある受賞おめでとうございます。

今年度の優良公民館表彰(所管:文部科学省)は、千葉県からは君津市清和公民館、九十九里町立中央公民館が受賞しました。また、千葉県教育功労者(団体の部)として佐倉市立志津公民館が、さらに公民館事業等への永年の尽力に対して次の方々表彰されました。

第62回(平成21年度)優良公民館表彰

(所管:文部科学省)

・君津市清和公民館

受賞理由 住民による取材活動で地域に密着した「館報づくり」は、山間部で高齢化の進む地域住民の地域連帯意識の形成に寄与している。また、若者の地域参加を促すため「清和子どもプロジェクト」「若者ボランティア講座」等の参加体験型事業を実施している。

【特色ある事業】『公民館だより「館報せいわ」発行』

・九十九里町立中央公民館

受賞理由 学校や社会教育施設、社会教育関係団体との緊密な関係、協力により事業を実施し、家庭及び地域社会の連携を推進している。

【特色ある事業】『九十九里町通学合宿』

千葉県教育功労者(団体の部)

(所管:千葉県教育委員会)

・佐倉市立志津公民館

受賞理由 開館以来、地域の特色を活かした多様な学習機会を提供するとともに、地域住民の学習成果や知識、技能を活かした取り組みをしている。成人教育事業では、地域社会を支えリードする人

材を育て、青少年教育事業や家庭教育事業に指導者として活用するなどの実践を積んでいる。

【特色ある事業】『しづ市民大学』『志津子ども教室』

公民館優良職員表彰(所管:社全国公民館連合会)

鈴木正敏さん(習志野市新習志野公民館長)

受賞理由 20年11ヶ月の永きにわたり、習志野市の公民館活動の振興に寄与。特に大久保公民館長在職中には地元特産の習志野にんじんの普及と地域の連帯を目指した地区学習圏会議の「にんじんまつり」が優良公民館表彰を受けるなど、生涯学習の推進に務めた。また、県公連活動においても、研究委員会、館長部会に籍をおき、公民館活動の理論構築や研修活動の充実に貢献した。

永年勤続職員表彰(勤続15年)

(所管:社全国公民館連合会)

・廣澤将臣さん(本埜ふれあいプラザ)

・鶴岡千登世さん(いすみ市大原公民館)

功労者表彰(県公連役員通算5年)

(所管:社全国公民館連合会)

・朱膳寺宏一さん(県公連顧問)

第121回主事部会研修会 『公民館の未来を切り拓くために』

～今、公民館職員は何をすべきか～



9月24日、千葉市幕張公民館を会場に、第121回主事部会研修会『公民館の未来を切り拓くために』～今、公民館職員は何をすべきか～が開催されました。

今回は講師に宇都宮大学生涯学習教育研究センター准教授の佐々木英和さんを迎え、県内の公民館職員約60人が参加しました。

まず初めに「教育とは」をテーマにメモ用紙に各自が思うことを記入した後、二人一組になりそれぞれ30秒ずつ相手にその話しをするという実習を行いました。30秒という時間はあっという間でした。そしてお互いの話しが終わると次は相手の話の感想を30秒間で伝える。たとえ的外れな感想を言っているに聞かぬ顔はせず、関心を持っているふりをしなければなりません。書くこ

とにより話しやすくなり、熱心に聞く（聞き上手になる）ことにより相手が気持ちよく話ができるようになる。講義の途中いくつかのテーマでこの「書く・話す・聞く」を行い、話のまとめ方と聞き方を学びました。

講義では、「教育」の「教（教え込み）」は手段の一つで、「育（育む）」が目的だということをお忘れにはいけない、相互作用によって学びあうことが現在は求められているとのことでした。著名な講師を呼べば人は集まるという時代ではないのです。そして社会教育（学校教育・家庭教育以外の教育）とは人間関係を豊かに育むことです。昔は井戸端会議や縁側での会話が地域をつなぐコミュニケーションの場であり社会教育の原点でしたが、それが少なくなった現在では公民館の役割はとて重要なのです。魅力ある公民館にするため、社会環境によって変化する住民ニーズを常に把握することが大切であり、そのためには聞き上手にならなければなりません。

最後に学ぶ基本について話がありました。

1. one of them から only one (かけがえのなさ) へ
2. 2 ways (学ぶ道はひとつではない、学びあう)
3. 参加、参画

ユーモアのある講義と会話の実習で、とても楽しく、意義ある研修でした。

県公連主事部会からのお知らせ

主事部会主催により第122回「宿泊研修会」は、南房総市富浦町にある大型リゾートホテル「富浦ロイヤルホテル」を会場に、平成22年1月20日(水)～21日(木)の1泊2日間の日程で開催いたします。

今回のテーマは「元気な公民館、元気な公民館職員であるために」としまして、1日目NPO法人あそび環境・北島尚志さんによる「響感する力～かかわること、つたえること、つながること～」・2日目大東文化大学非常勤講師・片野親義さんによる「公民館職員とは何か～その役割、これからを考える～」と題するお二人の基調講演などを予定しております。

詳細につきましては、各地区公連事務局を通じて送られました開催要項をご覧ください。

多くの方の、参加をお願いいたします！



「南房総随一の
富浦ロイヤルホテルの外観」

館**長**

「いつでも、誰でも、楽しく学べる」 公民館活動の充実をめざして

長柄町公民館 館長 小林 敬二さん

平成21年4月から初めて管理職となり、公民館長として勤務しています。

長柄町は、千葉県のほぼ中央部に位置し人口8,100人余りの町で、本公民館は昭和49年4月に竣工し、現在35年を経過したところであります。

本町が置かれている状況や、社会状況を勘案し、平成20年4月より行政改革の一環として、大課制を導入し縦割りの弊害をなくし限られた職員により、最小の経費で最大のサービスを提供することが重要視され、現在の職員体制は教育課生涯学習班として5名で生涯学習事業及び公民館事業を実施しています。

このような中で、学校や自治会、子ども会や青少年相談員などの縦割りの関係を横につなぐことができるのが公民館であり、乳幼児や青少年、成人、シニア世代、高齢者世代などの異世代交流を

促進し、地域の方々との出会いを大切に、趣味や運動、親子のふれあいなど、楽しみを通しての仲間作りの場の提供と、だれでも気軽に集える公民館として、一階のロビーを使ってパネル展示やショーケースに各サークル活動の作品を常に展示し、気軽に声掛けができるような環境作りを目指しています。

また、主催教室及び自主サークル等を合わせると50教室ほど開設しており、絵手紙教室をはじめ生花・書道・茶道・英語・絵画・幼児リトミック教室等幼児から高齢者まで、誰でも楽しく学べる教室等をこれからもみんなと考え、地域住民の多くの方々が利用しやすいよう職員一丸となり取り組んでいきたいと思ひます。



公民館スタッフのつばやきコーナー



「出会い・学び」を大切に!

職**員**

船橋中央公民館 新井 道代さん

平成20年4月から、新規採用職員として船橋市中央公民館で勤務しています。

船橋市には現在25公民館があって、市内5つのブロックに分かれています。それぞれに基幹館があり、各公民館の特色を生かした事業が行われています。

私の職場は南部ブロックの基幹館で、25公民館の中でも1番大きい公民館です。そのため地域向けの事業だけでなく、全市民的な事業に対するニーズもあるように感じます。

様々なニーズがあるからこそ、今本当に必要なものは何か、何を伝えていきたいかを常に意識して仕事に取り組まなくてはならないと思ひます。

公民館は、「出会い・学びの場所」です。経験や知識が豊富で親切な職員の方々、意欲的な利用者

の方々へ接して、私自身も「出会い・学び」の毎日です。

秋は講座なども多いのですが、大きなイベントが2つありました。どちらも市民の方が実行委員となり、企画・運営をしています。

私も実行委員会事務局として、企画・運営に参加していたのですが、ひとつの事業をみんなで作り上げていく楽しさや、無事事業が終わった時の達成感や充実感、この仕事だからこそ味わえるのではないのでしょうか。

また、魅力的な講座を企画するには、自分自身の知識や教養を高めなくてはならないと感じます。色々なものに触れ、考えることで自分の引き出しを作り、よりよい事業を企画・運営していきたいと思ひます。

まちより むらより、

地域ぐるみでお正月遊び 新春ちびっこ大会

君津市清和公民館 ☎0439-37-2195



「コマのまわし方知ってるか？」

—おじさんがニコニコしながら、子どもに近づいていきます。子どもの方とはいうと、ちょっと困り顔—

「新春ちびっこ大会」という事業で見られる一場面です。開催は1月上旬の土曜日。かるた大会、たこあげ大会、こままわし、竹馬、もちつき、そしてあったか〜豚汁のふるまいを行います。

たこあげ大会の風は、地域伝統の袖風。年末にたこづくり教室を実施し、そこで手作りしたものを上げます。当日は、子どもから大人まで地域の様々な

顔が集まり、「あけましておめでとう」。うまく上がらない風にひょいっと手を加えてくれるおじいちゃん。竹馬は、子どもよりも大人の方が夢中。かるた大会に集中力を発揮する子ども。みんなで正月遊びを楽しみ、もちつきに歓声を上げます。

当事業は、青少年相談員と清和公民館が主催し、民生委員・児童委員・社会福祉協議会・青少年健全育成連絡協議会など、地域のたくさんの人々の協力によって実施されています。まさに地域のつながりを実感する事業となっています。

清和公民館の歴史を紐解いてみると、開館の翌年、昭和48年度にその前身となる新春たこあげ大会が行われています。以来、今回の2010年正月のちびっこ大会は、第37回目の開催となります。

清和公民館の正月の風物詩ともいえる事業がこの新春ちびっこ大会。“現代的課題”という単語に象徴されるような新しい事業ばかりを追いかけがちですが、地域とともに地道にじっくりと歩んできた事業の大切さを、年の初めに再認識しています。

「アロマセラピーでストレス解消！」現代人の悩みをリラクゼーション

南房総市とみうら元気倶楽部 ☎0470-33-3411



現代社会においてストレスのない人はいないとされています。ストレスは根本から解消させるのが一番ですが、なかなかストレスの原因をなくすことは難しい場合が多いようです。

そこでストレスを別の方法で解消させる1つの手段として「アロマセラピー」というものがあります。毎年とみうら元気倶楽部で行っている「アロマセラピー教室」は、アロマセラピーの基本から精油の使い方を学んだり手足のオイルマッサー

ジをしたり、芳香浴をしたりして、香りによるリラクゼーションで心身を癒します。

アロマとは香りのこと、セラピーとは療法の意味ですので、アロマセラピーは日本語で「芳香療法」と訳されます。

香りの好みは人それぞれですが、各種取り揃えられた精油（サイプレス、ペパーミント、ゆず、ラベンダー等）からお好きなものを単品で選んだり、あるいは組み合わせるなどして、受講者各自がお好みの香りを選定し、あとは至極の楽園へと案内されます。持参した洗面器にお湯を注ぎ、精油を1滴垂らし、タオルで囲み、お好みの音楽でも流しながら顔を洗面器の上へ。数分後、精油の香りが鼻から脳へ、肺から全身へ、皮フから血液・リンパへ行きわたりなんだかとってもいい気持ち。受講者の方々のお顔も心なしか若返ったようなツヤツヤのお肌。「とっても気持ちいい」「身体が楽になった」と受講者の反応も良好。脱ストレスに向けて今後もこの教室は続けていこうと考えています。

持ちより公民館だより

主催事業から花のボランティアサークル誕生！

千葉市高浜公民館 ☎043-248-7500



「お花のある公民館にしたい」と、昨年、今年の主催事業で「初歩のガーデニングで仲間作りを」という事業を企画しました。昨年は秋の花壇、今年は春の花壇と2年間を通しての企画です。講師は千葉市の「緑と花の地域リーダー」に依頼。種まき、ポット上げ、土づくりと花育ての基本から学びました。咲いている花を植えるばかりでなく、繰り返し種を取って咲かせていく・落ち葉で堆肥作り・と、再利用の学習を盛り込んだガーデニング講座です。ボランティアの部分に賛同してくださった方が、2回の講座で12人残り、毎月第3土曜日に活動する「高

浜花の会」が誕生しました。公民館花壇の手入れが実習の場となり、7月には千葉市主催の花壇コンクールへの参加も実現できました。現在は高浜地区の地域リーダーを中心に活動しています。

ガーデニング好きな方、自宅マンションで活動するための勉強をしたい方、花の名前を覚えたい方、地域に仲間を作り、共に活動したい方・・・と会員の目標も様々ですが、「ただボランティアだけの2時間では長続きしない。自分達にとって学ぶもの、得するもの、楽しいものがある集いでなければ」と貴重な意見がだされ、その目標の実現に向けての会則もできました。

皆さんが集い、公民館の花壇、エントランスのプランターを花で飾ってくれています。今はサクラソウ、ビオラ、ナデシコなどの花苗がポットに植えかえられ、花壇への植えかえを待っている状態です。「花の都・千葉～花のあふれるまちづくり」が身近なところから実現していき、サークルの方達に感謝の気持ちで一杯です。

自家製の味噌を作ろう！

味噌作り体験教室！！

東金市中央公民館 ☎0475-50-1191



平成15年度より毎年3月に実施している味噌作り教室をご紹介します。この味噌作り教室は、農産物の推進をしている市内農産物第一加工所（東金市松之郷）代表土肥偉満子氏を講師として、ご協力を仰ぎ実施しています。場所の関係もあり、定員は15名程度ですが、人気のある講座なので、毎年キャンセル待ちが出るほどです。

この味噌作りは、昔からの手法を用いて作製しています。糶・塩・大豆を満遍なく混ぜて、機械に通して練ります。その練った物を桶に敷き詰めて、その上に重しを載せて半年ほど寝かせて出来上がります。

講師の土肥さんのお話だと、松之郷の辺りでは一昔前まで、どの家庭でも自家製の味噌を作って、毎

朝各家庭それぞれの味のおいしい味噌汁を食べていたそうです。

昨今、味噌を作る環境や場所がなくなったため、家で作られることが少なくなったと話していました。

この加工所では、地域の農産物の推進のため、試験農場で様々な農作物を作り、加工所で味噌作りを始め、いろいろなことに取り組んでいるそうです。

東金市中央公民館も伝統の味噌作りを通して、料理への関心と向上心を高めてもらおうと体験教室を始めました。老若男女問わず参加できる教室として、毎年活気があり楽しい教室です。3月に加工された味噌は、10月初旬には香ばしく熟成し、参加者へ2キロずつ配布されました。家族団欒のやすらぎの一時の中、香りとともに自家製の味噌の味を楽しまれているものと思います。

今年度も味噌作り教室を行う予定です。この体験をご自宅で活かしてもらい、料理への関心を持っていただき、地域の伝統を少しでも広めていただけるよう今後もこの講座を続けて行きたいと考えています。



シリーズ・県内の
元気館

君津市生涯学習交流センター
(君津中央公民館)

TEL 0439 - 50 - 3980

平成 20 年 11 月、老朽化にともない、君津中央公民館の解体が行われました。地元住民及び企業からの賛助を受け、昭和 39 年に建設された君津中央公民館。君津町から君津市へ、44 年という長い歴史を市民の方々と共に歩んできた学び舎は、建物としての役目を終えました。

君津中央公民館の改築計画は平成 13 年度から進められ、その中で利用者団体からのアンケートなどを行い、基本設計が進められてきました。その後、平成 18 年度には国土交通省の「まちづくり交付金」を活用する事に伴って、「君津中央公民館改築事業」を君津市生涯学習交流センター新築事業に変更。君津中央公民館存続を願い、利用者が発起人となって 5000 名もの署名を集める運動もありました。平成 21 年 4 月 1 日をもって、建物の名前こそ君津市生涯学習交流センターとなりましたが、市民の皆さんの熱い活動により、公民館条例を一部改正の上運用していくことが議会でも採択されました。現在、地域交流センター条例と公民館条例の 2 つの条例に基づいて運営しています。

4 月の開館以来、毎月の施設利用者は、延べ 9,000 人に届く規模となり、長期利用サークル数も 130 程に増えました。施設があたりしくなった事も手伝ってか、サークルに入って学習したい、新たにサークルを立ち上げて利用してみたいという多くの問い合わせがあります。

「人と地球にやさしく」をテーマにつくられた施設は、3 階建て、エレベーターもあります。館内の廊下には手すり各所に設置されているほか、各階に多目的トイレを設置し、車いすの方や小さなお子さん連れの方にも使いやすくなっています。また、マイクを通した音が磁気コイル付き補聴器を装着している方に聞きやすくなる「磁気ループ」を設置した会議室もあります。地球環境への配慮も特徴です。屋上に設置した太陽光発電システムによって、館内で使用する電気の一部をまかなっています。

職員は交流センターと公民館の業務を兼務しており、生涯学習交流センターの主催事業と君津中央公民館の主催事業を並行して行っています。

生涯学習交流センターの事業としては、市民アカデミー入門コース・上級コース、子育てサポーター、長期休業中の子ども対象事業、コンサートをはじめとしたイベントなど、全市を対象としたものを行っています。また、親子で気軽に利用できるフリースペースとして運用を開始した保育室・児童室の愛称を「こっこるーむ」とし、“子育て中の方の仲間作りを支援する場”としても、活用をしています。



幼児家庭教育学級つくしんぼ広場

夏休み なんちゃってお侍体験

君津中央公民館の事業としては、3 つの家庭教育学級、2 つの高齢者学級、館報「ひこばゆ」の発行、成人を祝う集いをはじめとした青年対象の講座、子どもたちを対象とした多目的ホールの開放、分館事業などを行っています。

また、小・中・高校生の居場所づくりを考え、ギャラリー部分をフリースペースとして開放し、オセロや将棋などの貸し出しも行っていきます。展示物がない時には、卓球台を設置し、卓球用具の貸し出しも行っていきます。

今回、11 月 1 日～3 日にかけて開催した第 45 回君津中央公民館文化祭は、新しい建物になって初めての文化祭となりました。初めてこの館を訪れる、という方にも大勢お越し頂きました。実行委員会の企画したイベントには、小さいお子さんを連れの方から小学生・中学生なども集まりました。寒い日もありましたが、盛況のうちに閉会となりました。

生涯学習交流センター（君津中央公民館）は、今まさに「ひこばゆ」。44 年の歴史を歩んできた君津中央公民館という幹から萌え出た若芽だと思います。今後、この芽を大きく育てるために、より一層住民とともに歩んでいく姿勢が必要だと考えています。

あとがき

公民館職員となって、初めて県公連の広報委員長となりました。私自身、広報紙の編集を経験した事がなく、大変戸惑いがありました。大塚編集長並びに役員一同の協力により、100号・101号を無事完成させることができました。

また、編集にあたり県内各地から会議に集っていただき、ありがとうございました。

これからも、会員皆様のご意見やご協力をいただき、魅力あるスタッフニュースを作成していきたいと思っております。よろしくお願ひします。
(野田)

ちばけん公民館スタッフニュース

編集：千葉県公民館連絡協議会 広報委員会

委員長：野田 政実(千葉市草野公民館)

〒263-0051 千葉市稲毛区園生町384-93

編集長：大塚 孝一(長南町中央公民館)

〒297-0142 長生郡長南町長南2145

発行：千葉県公民館連絡協議会

印刷：株式会社豊文堂